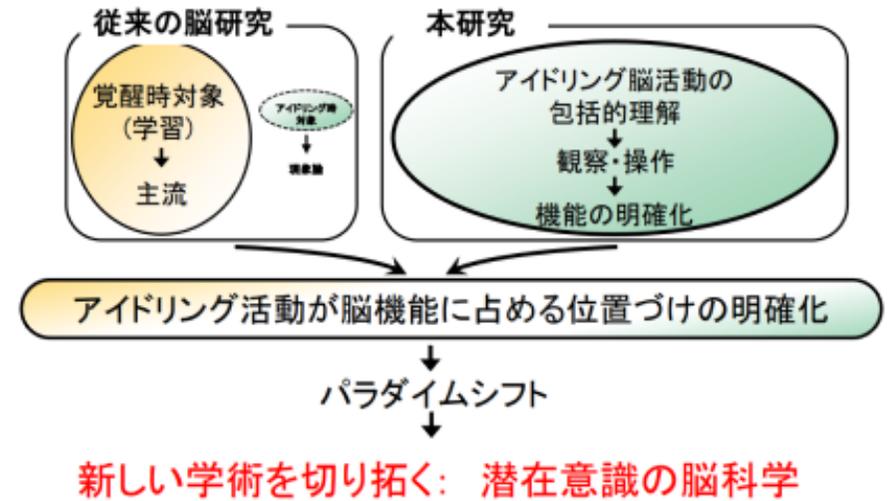
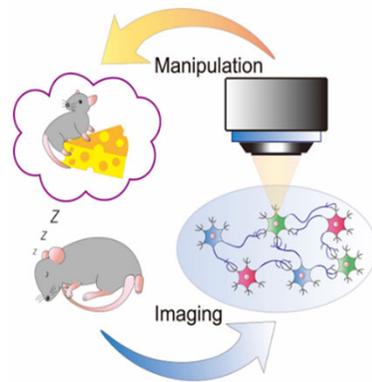


特色ある取組

メンデレーエフによる元素周期表の発見をはじめ、潜在意識下の脳が科学的発見につながった話は数多くあり、創造性に繋がる重要な洞察が睡眠によって得られることを強く示唆しています。過去20年の間に、睡眠が記憶機能、特に記憶の定着に果たす役割が細胞や回路のレベルで実証されてきています。さらに、睡眠は異なる記憶の統合等の高次脳機能にも関与しています。アイドリング脳科学研究センター(2020年4月設立)では、高次脳機能における睡眠と覚醒時の休息を含むオフライン脳活動の役割を研究しています。特に、マウス行動試験や脳動態の計測・操作法の開発により、新しい脳科学を切り拓いています。



アイドリング脳科学研究センター井ノ口研・宮本研



2020年9月アイドリング脳科学研究センターキックオフシンポジウム開催、2021年4月日米加の国際共同研究により、睡眠による記憶定着の機構をシナプス・分子レベルで解明(Miyamoto et al., Nat Commun, 2021)、2022年11月井ノ口馨センター長が北米神経科学学会にて特別講演、2023年4月日本神経科学学会機関誌 Neuroscience Researchの特集号“The idling brain in cognition”を出版(ゲストエディター:井ノ口馨センター長、宮本大祐准教授)

期待できる成果・評価など

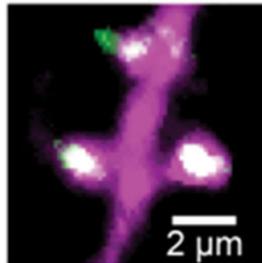
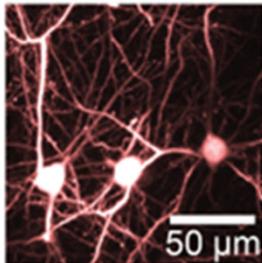
- ①世界トップレベルの基礎脳科学研究の推進
- ②最先端技術開発による革新的研究への道標
- ③神経・精神疾患における時間医療への貢献
- ④水際対策終了に伴う外国人大学院生・研究員の積極的受入による地域の国際化の推進

参考URL

- 富山大学HP
<https://www.u-toyama.ac.jp/>
- アイドリング脳科学研究センターHP
<http://www.sugitani-u-toyama.ac.jp/rcibs/index-j.html>

ニューロン

シナプス



アイドリング脳における高解像イメージング